

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・登場人物の相互関係や心情の変化を、叙述をもとに自分の言葉で表現することが苦手な児童が 20% 程いる。
- ・言葉の理解が難しい児童が 30%程いる。言葉を使って文章にすることが苦手な児童も多い。
- ・筆者が何を伝えたいのか理解し、要旨にまとめることが苦手な児童が半数程いる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・登場人物の相関図を書く。
- ・短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる。
- ・関連図書を読み、自分の考えを発表する。筆者の考えを捉え、感想文集を書いたり要旨を書いたりする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付ける。
- ②宿題の定着とスキルタイムでの漢字や言葉の復習を行う。

<検証方法>

- ①作文や日記、メモ等で把握する。思考力、判断力、表現力の平均 87 点から 90 点に引き上げる。
- ②漢字小テストで確認する。平均点 70 点以下の児童を 70 点以上にする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】







**〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 音楽科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。
- ・響きのある歌声で歌うことや、音色や響きに気を付けて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・合奏を班や学級全体で取り組むことで互いの良さを認め合うことや、振り返りを次の活動に生かす児童が増えた。
- ・歌唱やリコーダー活動は2学期のみのため、基礎・基本を身に付ける必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。
- ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。
- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

**＜方策＞**

- ①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。
- ②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

**＜検証方法＞**

- ①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。
- ②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

**＜成果＞**

**＜課題＞**

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 図画工作科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・ 自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 材料や道具などの使い方を工夫したり、以前学習したことを生かしたりすることができている。
- ・ 発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用したり、工夫している児童の活動を紹介したりする。
- ・ 自分の思いや気持ちを主体的に表すことを試せるような活動の場を設定する。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫している児童の作品を紹介して表し方の工夫のポイントをおさえる。
- ② 手や体を大きく動かす活動など、体全体の感覚を通して気持ちを開放しながら作品をつくるような場を設定する。

#### <検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品観察。そのような活動をした時に全児童がある程度の表現の深まりを体験できるようにする。

### 4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

#### <成果>

#### <課題>

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】



**〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 体育科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が10%程いる。
- ・運動での自分の動きがどのようになっているのか意識せずに体育の学習を行っている児童が30%程いる。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。
- ・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気づきを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。
- ・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。
- ・1時間の流れを示し、見通しをもたせる。
- ・ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。
- ②1時間の流れを示し、見通しをもたせる。
- ③ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。

＜検証方法＞

- ① 普段の授業の取り組みから意欲が低い児童が10%から0%になるようにする。
- ② 身体の動きのデータを活用して、変容を確認できる時間を設定する。運動での自分の動きを意識しながら学習に取り組む児童を10%増やす。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】**



**〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 道徳科〉**

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の内容を自分の事のように捉えられていない児童が20%程いる。</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。</li> <li>・「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。</li> <li>・友達との意見交換や意見交流の場を毎時間設定する。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。</p> <p>②「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①ワークシートへの記述で把握する。自分の意見を書ける児童を100%にする。</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。</p> <p>②「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①ワークシートへの記述で把握する。自分の意見を書ける児童を100%にする。</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。</p> <p>②「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①ワークシートへの記述で把握する。自分の意見を書ける児童を100%にする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>&lt;成果&gt;</p>    <p>&lt;課題&gt;</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 総合的な学習の時間〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・知識に個人差があり、そのことによって意欲が低い児童が10%程いる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。
- ・学習の振り返りを学習ごとに行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。
- ②学習の振り返りを学習ごとに行う。

<検証方法>

- ①学習のまとめで自分が学んだことを全員が発信できているかを把握する。
- ②学習の振り返りを毎時間、記述・発表させ、確認をする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】